

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成24年5月17日(2012.5.17)

【公開番号】特開2011-23184(P2011-23184A)

【公開日】平成23年2月3日(2011.2.3)

【年通号数】公開・登録公報2011-005

【出願番号】特願2009-166279(P2009-166279)

【国際特許分類】

H 01 J 49/42 (2006.01)

H 01 J 49/06 (2006.01)

G 01 N 27/62 (2006.01)

【F I】

H 01 J 49/42

H 01 J 49/06

G 01 N 27/62 L

G 01 N 27/62 G

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月5日(2012.3.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

質量スキャン工程では羽根電極21の間に補助交流電圧(振幅0.01V~100V、周波数10kHz~500kHz)が印加される。またトラップワイヤ電極24には1V~30V程度の電圧が印加される。トラップRF電圧振幅を変化させることでイオンを質量選択的に共鳴排出する。このとき排出されるイオンのm/zとトラップRF電圧振幅(V)の関係は以下の式で表される。このとき排出されるイオンの軌道101を図3に模式的に示す。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

排除工程ではイオントラップ部32のトラップRF電圧を0にして、トラップ外へとすべてのイオンを排出する。排除工程の時間は0.1~10ms程度である。その後、イオントラップ部32と検出器33の各電極の極性を切り替える。イオン源1からイオンガイド部31までの各電極への印加電圧は質量スキャン工程と同じで、排除時間に導入されたイオンもイオンガイド部31にトラップされる。